オリンピック種目別実績推移対象大会:オリンピック本大会/世界選手権

オリンピック強化委員会 2023年11月16日



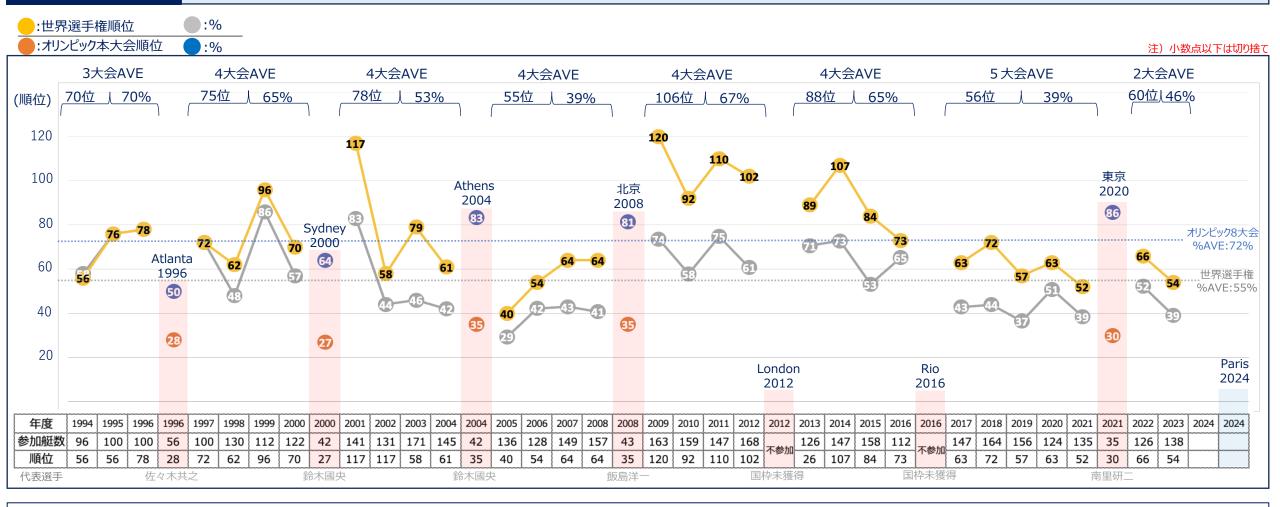


ILCA7

過去オリンピック8大会 過去30年間の世界選手権

順位AVE: 31位/43艇 順位AVE: 75位/136艇 %AVE: 72% %AVE: 55%

% (パーセント) = 順位/参加艇数



- ▶ 1996年のアトランタ大会より「シングルハンド男子」の正式種目として採用。過去オリンピック8大会平均順位は31位、パーセントAVEは72%。
- ▶ これまで開催された8回のオリンピックの中で、ロンドン、リオ大会の2大会で出場を逃しており、自国開催の東京で13年ぶりの出場を果たした。
- ➤ 過去30年間の世界選手権大会の平均順位は73位、パーセントAVEは55%。



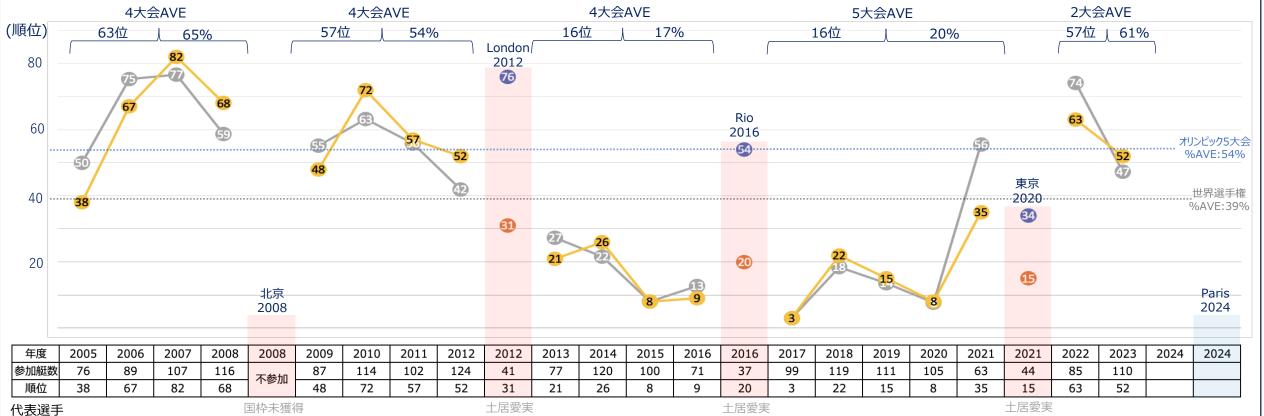
ILCA6

過去オリンピック5大会 順位AVE:22位/40艇 %AVE:54% 過去19年間の世界選手権 順位AVE:39位/98艇 %AVE:39%

% (パーセント) = 順位/参加艇数



注) 小数点以下は切り捨て



- ▶ 2008年北京大会からヨーロッパ級に代わって「シングルハンド女子種目」にLaserラジアルが採用。第1回大会となる2008年は国枠を獲得できず不参加。
- ▶ 過去4回のオリンピック大会平均順位は22位、パーセントAVEは54%。
- ▶ 土居愛実選手が18歳で2012世界選手権に出場し日本代表選手となる。19歳でロンドン大会に初出場し、その後3大会連続のオリンピック出場を果たす。2017年には日本人初となる世界選手権での銅メダル獲得を達成するなど、アーサーブレッド(AUS)コーチと共に10年間で延べ4回のメダルレース出場と銅メダル1個を獲得。
- ➤ 過去19年間の世界選手権大会の平均順位は39位、パーセントAVEは40%。

iQFOIL M

過去オリンピック7大会

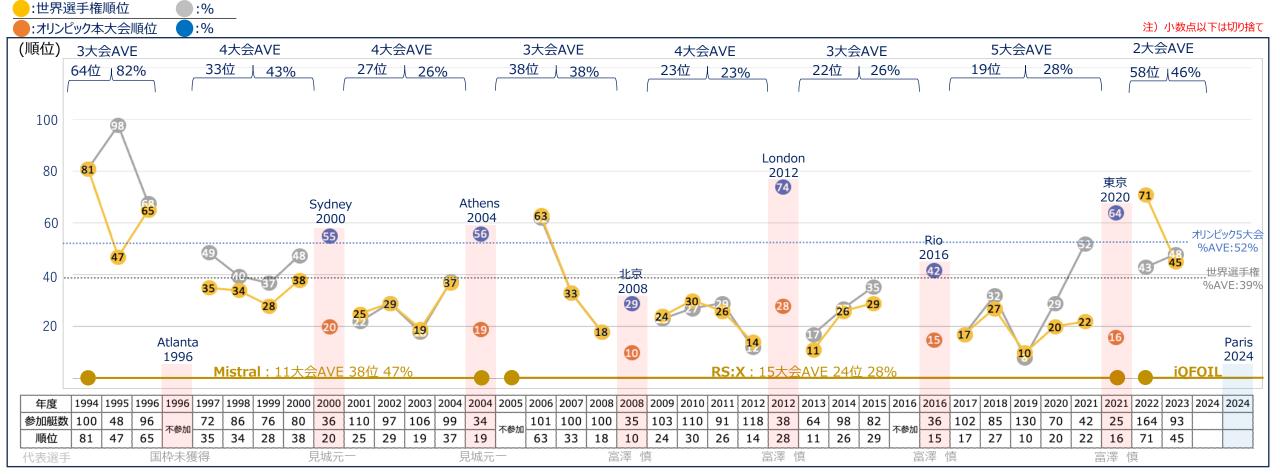
順位AVE: 18位/34艇

%AVE: 52%

% (パーセント) = 順位/参加艇数

過去30年間の世界選手権

順位AVE:33位/83艇 %AVE: 39%



- 1996年アトランタ大会より「男子ウィンドサーフィン種目」として採用されミストラル級で第1回大会が開催。第1回大会は国枠未獲得のため未出場であるが、2000年 以降は連続出場を継続。
- 27年間の間で2回のクラス変更が行われており、東京大会以降、RS:XクラスがiQFOILクラスへ変更され2年が経過。
- 2008年の北京大会では富澤慎選手がオリンピック史上最高の10位を獲得。過去オリンピック7大会の平均順位は18位、パーセントAVEは52%。

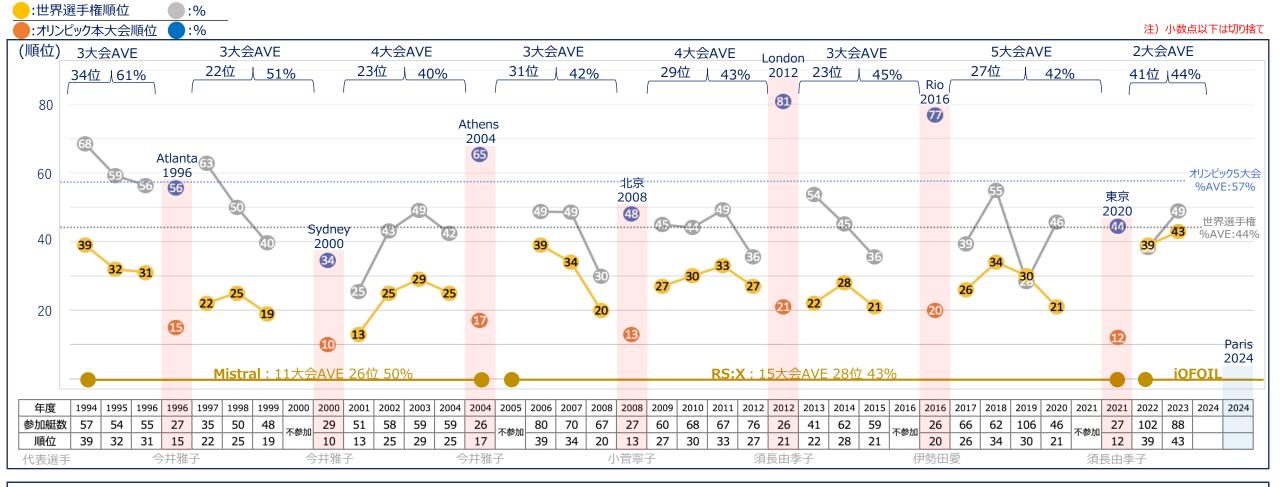


iQFOIL W

過去オリンピック7大会

% (パーセント) = 順位/参加艇数

順位AVE:15位/26艇 %AVE:57% 過去30年間の世界選手権 順位AVE:28位/63艇 %AVE:44%



- 1996年アトランタ大会より「女子ウィンドサーフィン種目」として採用されミストラル級での第1回大会が開催された。
- 過去オリンピック7大会の平均順位は15位、パーセントは57%。21年間の間で2回のクラス変更が行われており、東京大会以降はiQFOILクラスへ変更され2年が経 過。2000年シドニー大会では今井雅子選手がオリンピック史上最高の10位を獲得。
- 過去30年の世界選手権平均順位は28位、パーセントAVEは44%、直近の世界選手権2大会の平均順位は41位、パーセントAVEは44%。



Formula Kite M

|過去8年間の世界選手権

順位AVE:64位/82艇 %AVE:78%

W

過去8年間の世界選手権

順位AVE:30位/32艇 %AVE:93%

- :世界選手権順位





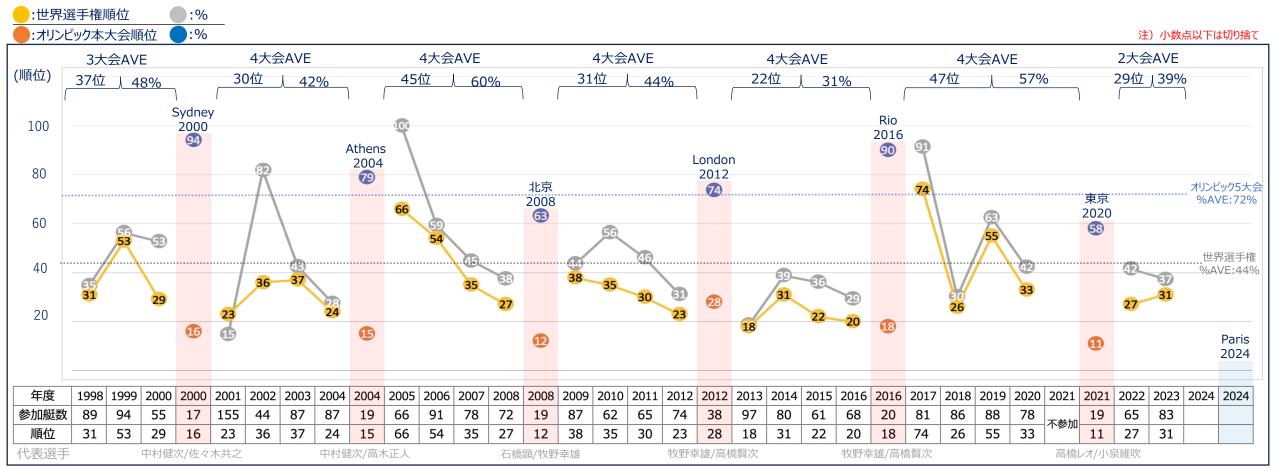
- ▶ 2024年パリ大会で「男子/女子カイト種目」として初採用。世界選手権は2016年から開催されており、過去男子/4回、女子/2回の参加実績。
- ▶ 男子の世界選手権平均順位は64位、パーセントAVEは72%。女子の世界選手権平均順位は30位、パーセントAVEは93%。
- ▶ 直近男子の世界選手権2大会の平均順位は75位、パーセントAVEは85%、女子の2023世界選手権大会成績は51位、パーセントは96%。



49er

過去オリンピック6大会 順位AVE:16位/22艇 %AVE:72% 過去26年間の世界選手権 順位AVE:35位/79艇 %AVE:44%

% (パーセント) = 順位/参加艇数



- ▶ 2000年シドニー大会より「男子スキフ種目」として採用され、過去6回のオリンピック大会平均順位は16位、パーセントAVEは72%。
- ▶ 第1回大会から6大会連続でオリンピック出場を継続しているクラスである。過去最高順位は2021年東京オリンピックで高橋レオ/小泉維吹の11位。
- ▶ 過去26年間の世界選手権大会の平均順位は35位、パーセントAVEは44%であり、直近2年間の世界選手権の平均順位は29位、パーセントAVEは39%。

過去オリンピック2大会 過去11年間の世界選手権 順位AVE:27位/45艇

順位AVE:19位/20艇

%AVE: 92% %AVE: 60%

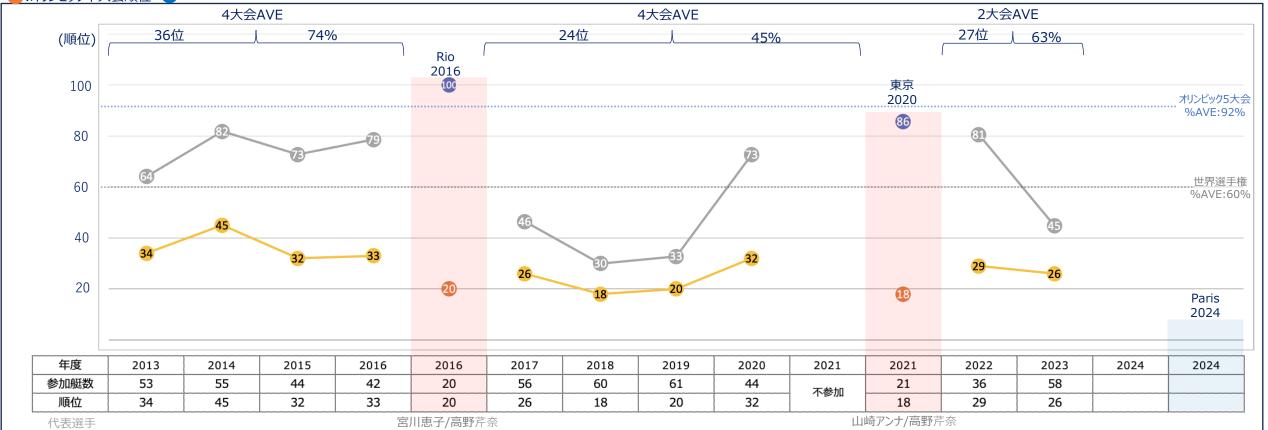
% (パーセント) = 順位/参加艇数

:世界選手権順位



:% :オリンピック本大会順位

注) 小数点以下は切り捨て

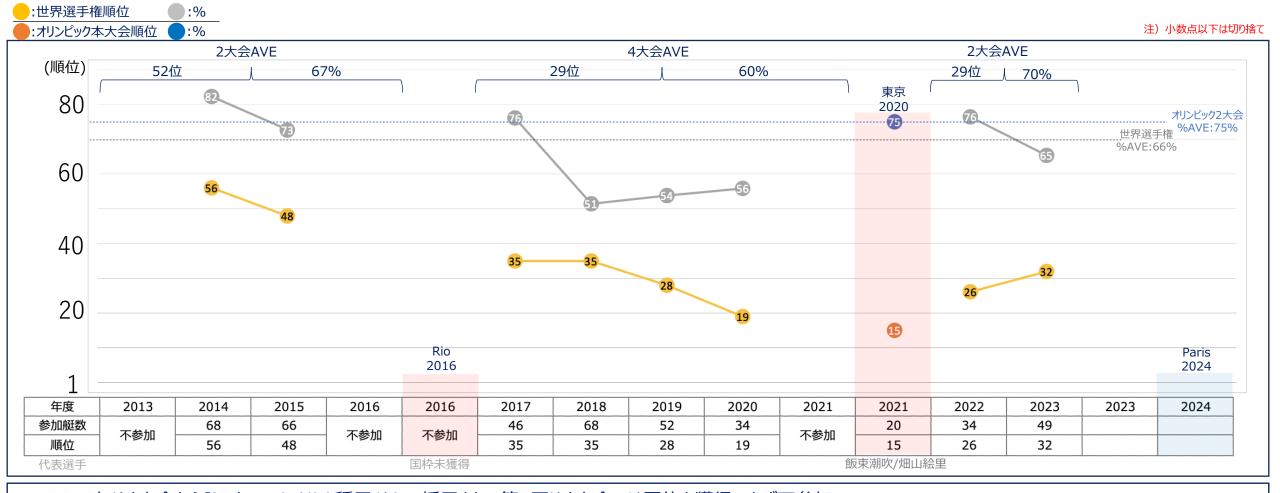


- 2016年リオ大会から[女子スキフクラス種目]として採用され、これまで2回のオリンピックの平均順位は19位、パーセントAVEは92%。
- 第1回大会となるリオ大会では当時高校3年生の高野瀬奈選手がクルーで出場権を獲得。
- 世界選手権は2013年から開催されており、10年間での平均順位は27位、パーセントAVEは60%。
- 直近2年間の世界選手権の平均順位は27位、パーセントAVEは63%。

Nacra17

過去オリンピック2大会 順位AVE:15位/20艇 %AVE:75% 過去11年間の世界選手権 順位AVE:34位/48艇 %AVE:70%

% (パーセント) =順位/参加艇数



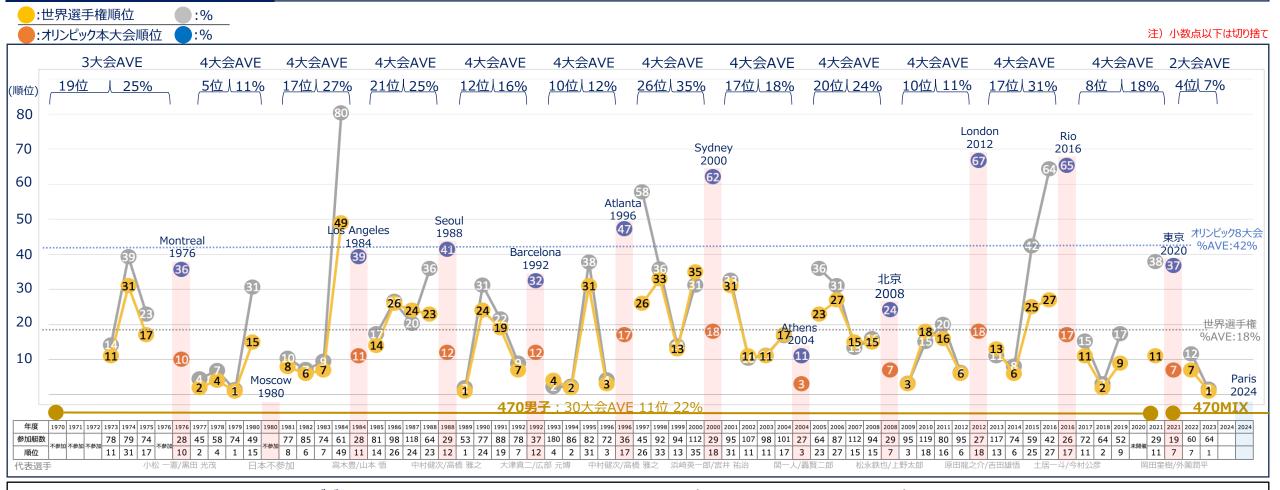
- ▶ 2016年リオ大会から[ミックスマルチハル種目]として採用され、第1回リオ大会では国枠を獲得できず不参加。
- ▶ 東京大会での順位は15位、パーセントAVEは75%。
- ▶ 世界選手権は2013年から開催されており、過去11年間の平均順位は34位でパーセントAVEは70%。
- ▶ 直近2年間の世界選手権の平均順位は29位、パーセントAVEは66%となっている。

470M/MIX

過去オリンピック12大会 順位AVE: 12位/28艇 %AVE: 42%

過去47年間の世界選手権 順位AVE:15位/81艇 %AVE:18%

% (パーセント) = 順位/参加艇数



- ▶ 1976年のモントリオール大会より「男子ダブルハンド種目」として採用され、過去47大会のオリンピック大会平均順位は12位、パーセントAVEは42%。
- ▶ 2004年のアテネ大会で関一人/轟賢二郎組が日本男子史上初の銅メダルを獲得。
- ▶ 世界選手権大会では、1979年オランダ:メデンブリックにて甲斐幸/小宮亮組が日本人史上初の金メダルを獲得。10年後の1989年日本:津にて堤智章・堤伸浩組が日本人 2チーム目の金メダルを獲得している。過去47年間の世界選手権大会の平均順位は15位、パーセントAVEは18%。
- ▶ パリ大会より「MIXデンギー種目」として種目変更が行われ、2023年の世界選手権では岡田奎樹/吉岡美帆組が、新種目変更後史上初の金メダルを獲得。

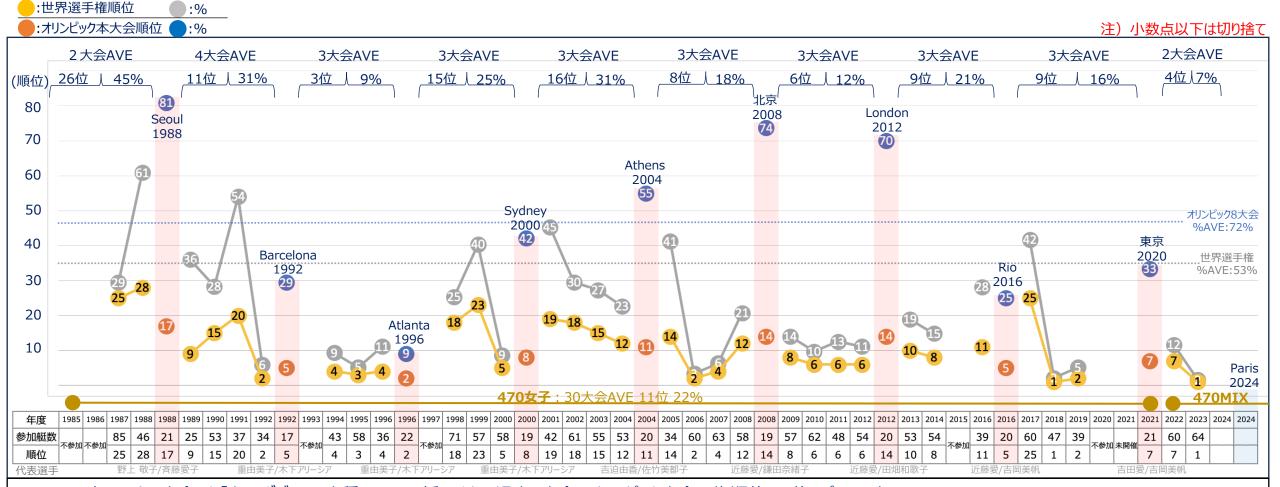
470W/MIX

過去オリンピック9大会

順位AVE:9位/19艇 %AVE:47%

% (パーセント) = 順位/参加艇数

過去30年間の世界選手権 順位AVE:11位/51艇 %AVE:21%



- 1988年のソウル大会より「女子ダブルハンド種目」として採用され、過去9大会のオリンピック大会平均順位は9位、パーセントAVEは47%。
- 1996年のアトランタ大会で重由美子/木下アリーシ組が日本セーリング界史上初の銀メダルを獲得。
- 2018年の世界選手権(ワールドカップ)では、近藤愛/吉岡美帆組が日本セーリング界、女子史上初となる金メダルを獲得している。
- 過去30年間の世界選手権大会の平均順位は11位、パーセントAVEは21%。
- パリ大会より「MIXデンギー種目」として種目変更が行われ、2023年の世界選手権で岡田奎樹/吉岡美帆組が、新種目変更後史上初の金メダルを獲得。

セーリング競技の歴史

オリンピックは1896年の第1回アテネ大会以来、127年の月日が経過しており、来年開催される2024年パリ大会で32回目の開催となる。

日本が初めてオリンピックに参加したのは1936年のベルリン大会である。その後、第2次世界大戦開戦により日本は3回連続での不参加となる。1952年に第2次世界大戦が終結し、2回目となるヘルシンキ大会に出場。以来51年の歴史の中で、1996年アトランタ大会において重由美子/木下アリーシア組が日本セーリング史上初となる銀メダルを獲得、2004年アテネ大会では関一人/轟賢二郎組が男子史上初の銅メダルを獲得。

これまで、日本は銀メダル1個、銅メダル1個の合計2個のメダルを獲得しており、唯一獲得できていない金メダルをパリオリンピックで獲得すべく強化を展開中。

セーリング発祥の地はオランダ。

まだ蒸気機関やエンジンが発明されていない時代に、大海原を渡るために生まれ、地方の探査や物資の輸送を目的としながらヨーロッパ各地で広く利用されていました。その後、遊びとしてセーリングを始める人が徐々に増えていき、船も次第に小型化していった。

1720年:16世紀初頭アイルランドで初めてセーリングのための世界最古のヨットクラブが創設されたことがきっかけで、スポーツとして発展。

1800年:80年代中期よりスポーツとしてのセーリングが、活発になる。

1896年:第1回アテネオリンピック大会開催。セーリング競技も採用される。 (悪天候のため大会実施されず)

1875年:日本で初めてヨットレース(セーリング)が開催。

1890年:90年代に大学予備門などの上級学校に導入され、各地の師範学校や旧中学校でレースが開催される。

1932年:日本ヨット協会(JYA)が発足。

1936年:日本が初めてオリンピックに参加(ベルリン大会)。その後、第2次世界大戦となり日本は不参加。

1952年:第2次世界大戦終結後、日本は2回目のオリンピック参加。(ヘルシンキ大会)

1964年:日本で初めてオリンピックが開催(東京オリンピック:江の島会場)

1979年:世界選手権、オランダ:メデンブリックにて甲斐幸/小宮亮組が日本人史上初の金メダルを獲得。(470男子)

1996年:アトランタオリンピック大会で重由美子/木下アリーシア組が史上初の銀メダルを獲得。(470女子)

1989年:世界選手権、日本:津にて堤智章・堤伸浩組が日本人2チーム目の金メダルを獲得(470男子)

1999年:日本ヨット協会(JYA)と日本外洋帆走協会(NORC)が統合され、<mark>財団法人日本セーリング連盟(JSAF)が発足</mark>。

2004年:アテネオリンピック大会で関一人/轟賢二郎組が男子史上初の銅メダルを獲得。(470男子)

2017年:世界選手権、オランダ:メデンブリックにて土居愛実選手がシングルハンド女子で日本人史上初の銅メダルを獲得。(レーザーラジアル)

2018年:世界選手権、デンマーク:オーフスにて近藤愛/吉岡美帆組が日本人女子史上初となる金メダルを獲得。(470女子)

2023年:世界選手権、オランダ:ザ・ハーグにて岡田奎樹/吉岡美帆組が、新種目変更後、史上初の金メダルを獲得。(470MIX)

